

過去作品の再定義

アートフルタウン大垣にて発表した作品について

Redefinition of a work from the past

About my work I published at “Artful Town Ogaki”

映像メディア学科・非常勤講師
Department of Visual Media・Part-Time Lecturer

中上 淳二 Junji NAKAUE

概要

1.1 サウンドインスタレーション展 「4.1fragments + 16.1fragments」

筆者が2011年12月にNUASギャラリーにて開催した谷口友帆との共同サウンドインスタレーション展「4.1fragments + 16.1fragments」は、現代、オーディオデバイスの小型化により音楽を楽しむ行為はイヤホンなどの機器を使い、それらを直接耳にあてて鑑賞する方法が主流となってきたが、音楽とは身体の五感を多用して鑑賞する本来の姿を現代的な方法で提示することをコンセプトとした展覧会であった。

1.2 作品「4.1fragments」

この作品において使用したパラメトリックスピーカーは指向性を強く持った音響を生成することが出来、スピーカーの向く直線上、またはその向きの先にある壁などに反射した線上に立つ鑑賞者のみに音が聞こえるという特殊なスピーカーであった。パラメトリックスピーカーは多軸機構をもったサーボモーターに取り付けられ、展示会場内を縦横無尽にサウンドが飛び交うようなシステムとしていた。

〔制作〕 作品「The Answer is」

昨年9月～11月の間、大垣市にて開催された「アートフルタウンおおがき2012」というイベントの中で作品を発表する機会をいただき、筆者は上記作品のブラッシュアップバージョンを発表することにした。

上記作品を制作し終え「今、そこで音が聞こえる」感覚がこの作品においては重要だと感じ、また、スピーカーの周波数特性として人の声の帯域が一番聞こえやすいため、これらの特性を活かした作品制作に臨んだ。

「何か一つのことを認識し理解するためには、そのものを見つめ続けるのではなく、その周りにある要素を紡いでいくことによって中心にあるものが見えてくる」という考えの下、自分自身の生活の身の回りにあるもの(レコード・声・振動など)や気になる人の考え(ここではアーサー・C・クラーク)などを部屋中に散りばめ、パラメトリックスピーカー先端に取り付けられたLED照明が対象物を照らした時に、そのものからサウンドが聞こえてくるという形式のインスタレーション作品へと昇華させた。

タイトルを、「答えはいつも一つでは無く、それは(自分以外)誰も知り得ない」という意味が籠るよう、ボブ・ディランの「Blowin' in The Wind」の歌詞から引用し「The Answer is」とした。



写真1: 吊るされたアーサー・C・クラークの写真



写真2: 壁に描かれた「声」という文字

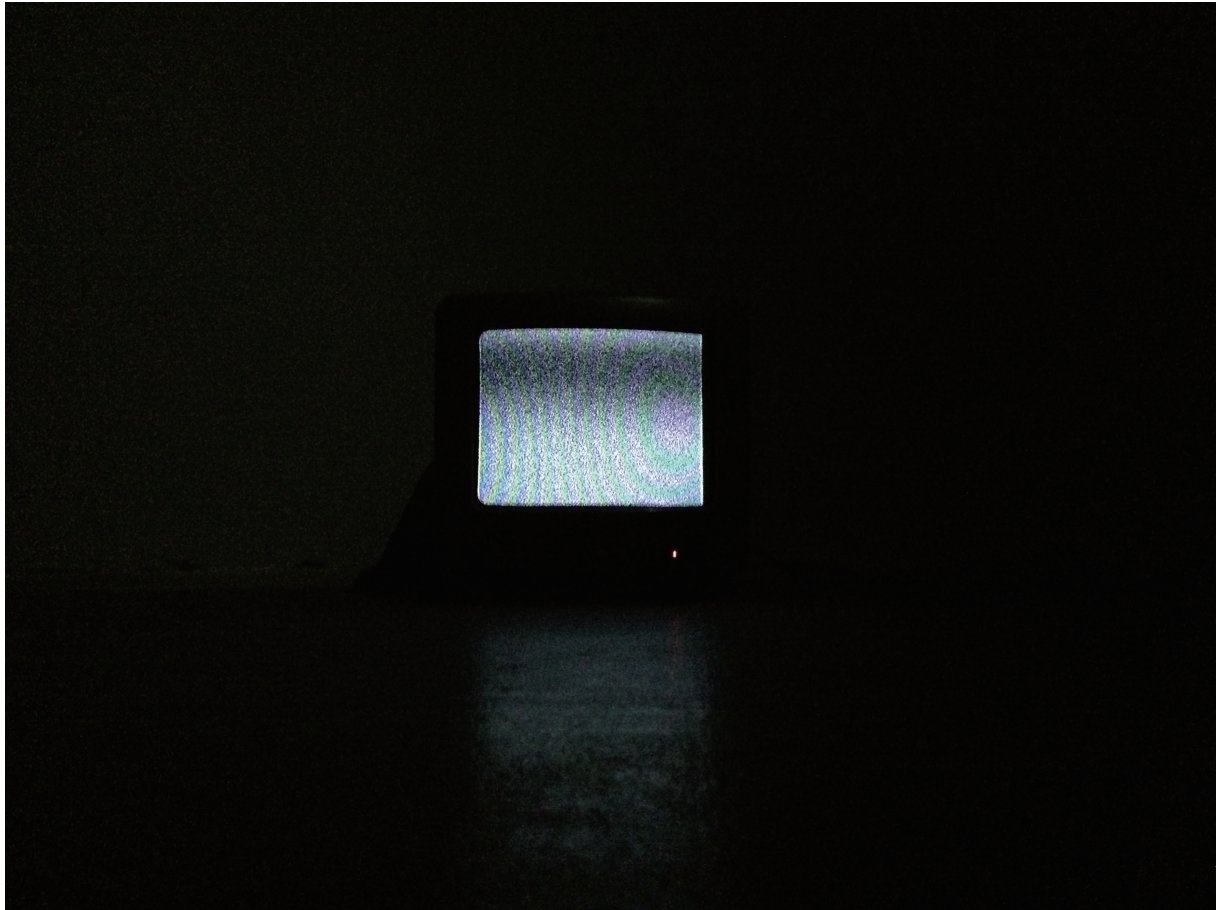


写真3:電気の存在を視覚化するために使用した砂嵐映像



写真4:アウラのテーマで使用したソファ

